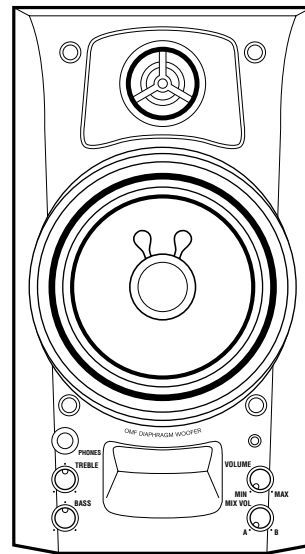
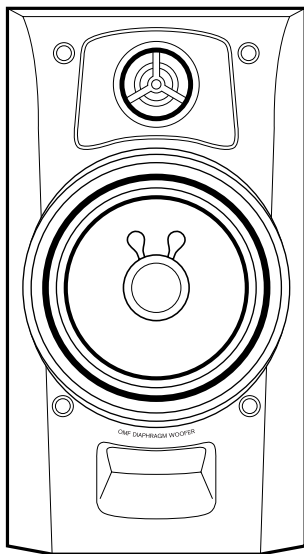
GX-70AX

POWERED SPEAKER SYSTEM

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとはいつでも見られるところに保証書、オンキョーサービス網一覧表とともに大切に保管してください。

目次

安全にご使用いただくために

ご使用の前に

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告　**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示しています。**

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電、アンプの故障の原因となります。すぐにアンプの電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源、電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- 本機は屋内専用に設計されています。水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。故障や火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

- 本器の内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

■ 中に水や異物が入ったら

- 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、直ぐにアンプの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。

⚠注意

■ 設置上の注意

- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 移動させる場合は、サランネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。
  故障やけがの原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、スピーカーコードをはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、スピーカーコードをはずしてから行ってください。落下や転倒など思わぬ事故の原因となります。
- スピーカーコードの配線に注意してください。
  スピーカーコードを足に引っかけると転倒したり、スピーカーが倒れて危険です。特にスピーカースタンドを使用したとき、高いところに置いたとき、壁に掛けたときなど、危険です。

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

- 本機を他のオーディオ機器やテレビ等の機器と接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。

■ 使用上の注意

- 電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。過大入力でスピーカーが破損したり、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
- 音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- スピーカーの上に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。スピーカーの磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて火災・感電の原因となることがあります。
- 旅行などで長時間、本機器をご使用にならないときは、安全のために必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源コードを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。必ず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 点検について

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

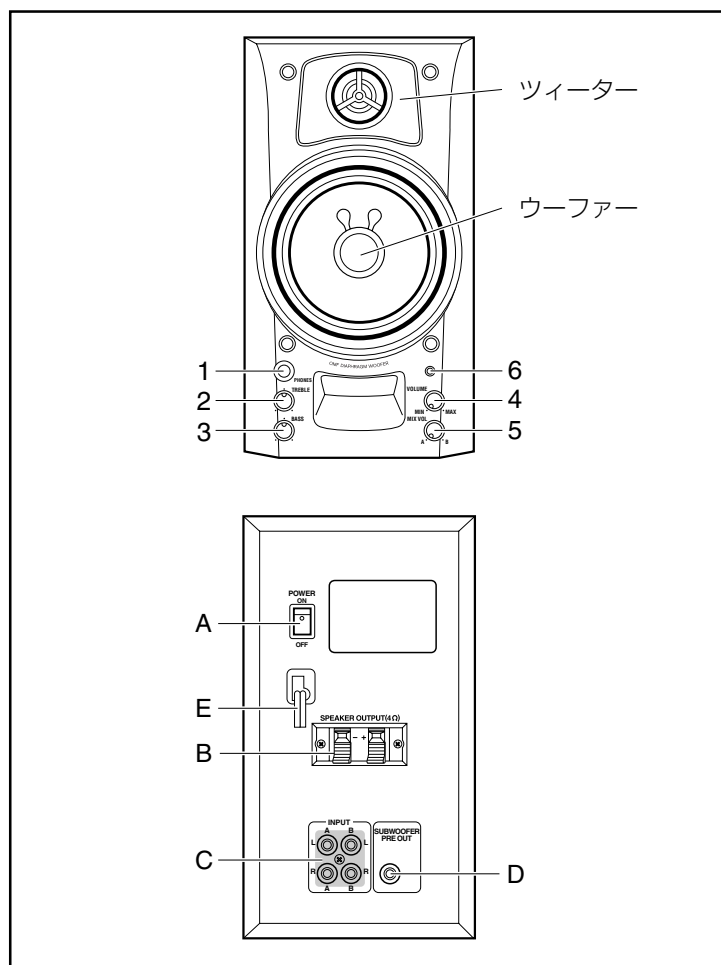
♪音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

特長

■ 本機は、高級機にも採用している OMF ダイヤフラム(OMF=ONKYO Micro Fiber の略です) をウーファー部に採用し、低音をクリアでリアルに再生することができるアンプ内蔵のスピーカーシステムです。
■ 2系統の入力端子を備えていますので、片方の出力をコンピューターの音声出力端子に接続し、もう片方をオーディオ機器に接続するなどの使い方ができます。
■ 2系統のソースを自由にミックスして再生することができますので、コンピューターで作業をしながらBGMとしてオーディオ機器からのソースを再生できます。
■ サブウーファー端子を備えていますので、本機とお手持ちのアンプ内蔵のサブウーファーとを接続することによりさらにクオリティの高い低音を再生することができます。

各部の名称とはたらき

■ 右チャンネルスピーカー

■ 左チャンネルスピーカー

前面パネル（右チャンネルスピーカー）

1. ヘッドホン端子（PHONES）
   ヘッドホンやイヤホンを接続します。接続するとスピーカーからの音は聞こえなくなります。
2. トレブルツマミ（TREBLE）
   高音の再生レベルを調整します。
   ツマミを時計方向に回すと再生レベルが大きくなります。
   中央でフラットになります。
3. バスツマミ（BASS）
   低音の再生レベルを調整します。
   ツマミを時計方向に回すと再生レベルが大きくなります。中央でフラットになります。
4. ボリュームツマミ（VOLUME）
   音量を調整します。ツマミを時計方向に回すと音量レベルが大きくなります。
5. ミキシングボリュームツマミ（MIX VOL.）
   背面入力端子Ａ，Ｂから入力される音量レベルのバランスを調整します。反時計方向に回すとＡ端子からの音、時計方向に回すとＢ端子からの音量レベルが大きくなります。
   Ａのみ入力の場合は、ツマミを反時計方向(A 側)いっぱいの位置に、Ｂのみ入力の場合は、ツマミを時計方向(B 側)いっぱいの位置にしてください。
6. パワーインジケーター
   背面の電源スイッチをオンにすると点灯します。

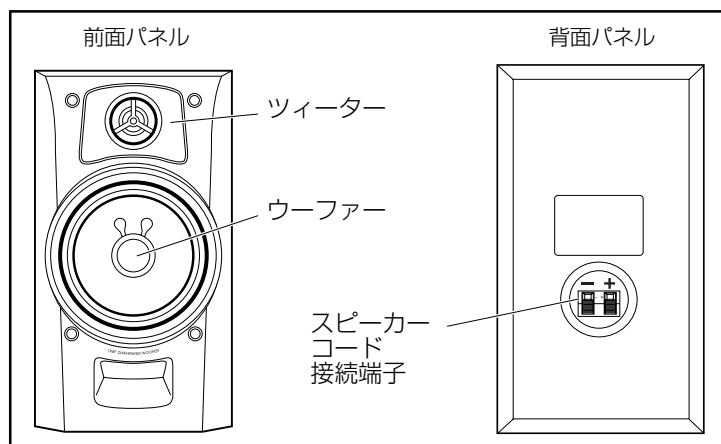
背面パネル（右チャンネルスピーカー）

A. 電源スイッチ（POWER）
   内蔵アンプの電源スイッチです。
B. 左チャンネル用スピーカー出力端子（SPEAKER OUTPUT）
   左チャンネルのスピーカーと接続するための端子です。
C. 信号入力端子（INPUT）
   本機に信号を入力するための端子です。RCA ピンジャックの入力端子です。
D. サブウーファー端子（SUBWOOFER PREOUT）
   本機と、お手持ちのアンプ内蔵サブウーファーとを接続するための端子です。
E. 電源コード

本機の底面のネジについて

本機の底面には市販されているスピーカースタンドなどのアクセサリーを取り付けて、設置のバリエーションが楽しめるネジが装着されています。（M5 雌ネジ×2、ピッチ60mm）本機はアンプ内蔵型のスピーカーシステムのため、通常のスピーカーシステムより重くなっていますので、アクセサリー等をご使用の際は、耐荷重や設置したときの安定性に十分注意願います。

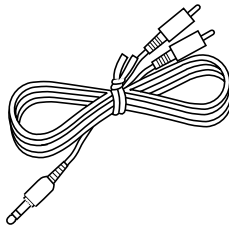
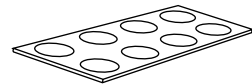
ご注意

- アクセサリーをご使用の際はネジ長に注意してください。有効ネジ長が10mm以下で強度が充分得られる物をご使用ください。
- 本機を天地逆にしたり、寝かして使用しないでください。故障の原因となります。

開梱時のご注意

カートンケースとパッキング類は、修理および交換時の輸送用として使用する場合のために処分せずに保管しておくことをおすすめします。
もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買いあげになった販売店までご連絡ください。そのままではご使用にならないでください。

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。（　）内の数字は数量を表しています。

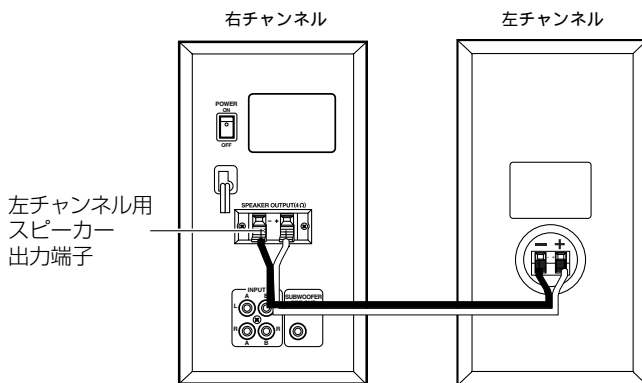
- スピーカーコード（1.5m）（1）

- 接続コード（ステレオピンプラグ ⟷ ステレオミニプラグ（1.5 m））（1）

- スペーサー（8）

- 保証書・愛用者カード（1）
- 取扱説明書（本書1）
- オンキョーサービス網一覧表（1）

スピーカー端子間を接続する

本機に付属のスピーカーコードで左チャンネルスピーカーと右チャンネルスピーカーを接続してください。

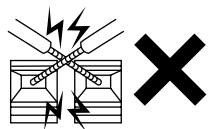
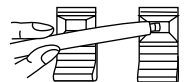
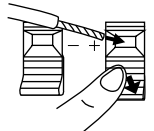
ご注意

- すべての接続が終わるまでは、電源コードをコンセントに差し込まないようにしてください。
- 電源を入れる前は、必ずボリュームツマミは反時計方向に回して最小の位置にしておいてください。

■ スピーカーコードのつなぎかた

1. スピーカーコードの芯線部をよじります。

2. スピーカー端子のレバーを押しながらコードの先端を奥までしっかりと差し込みます。指を離すとレバーが戻ります。

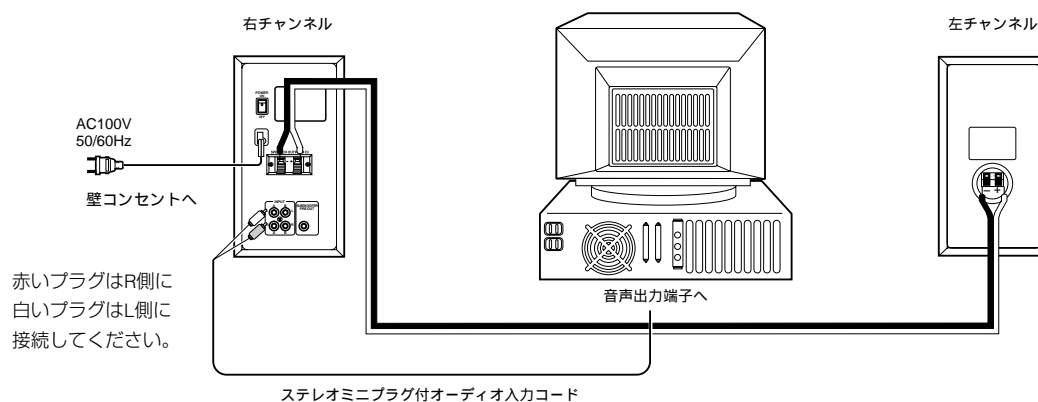
3. コードを軽く引っ張ってみて抜けないことを確認してください。

4. スピーカーコードの接続は、芯線部が隣の端子や金属部に触れていないかよく確認してください。ショートしたまま動作させると右チャンネルスピーカー内蔵アンプの故障の原因となります。

ご注意

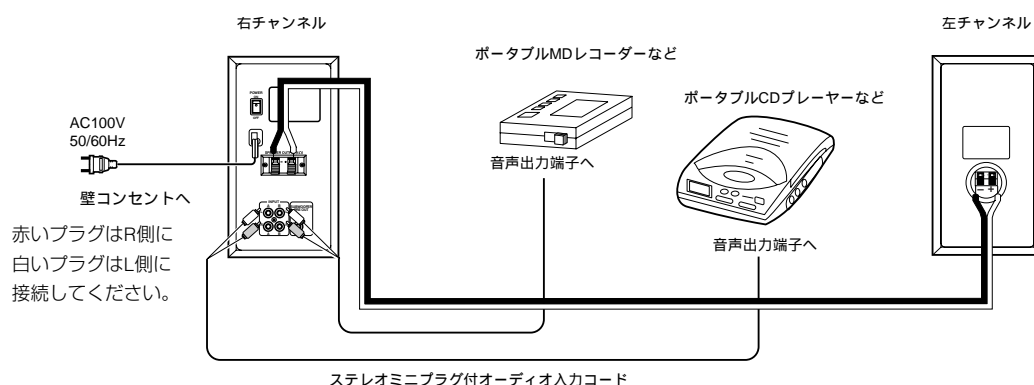
「左チャンネル用スピーカー出力端子」は左チャンネルスピーカーを接続する専用端子です。他のスピーカーやアンプは接続しないでください。

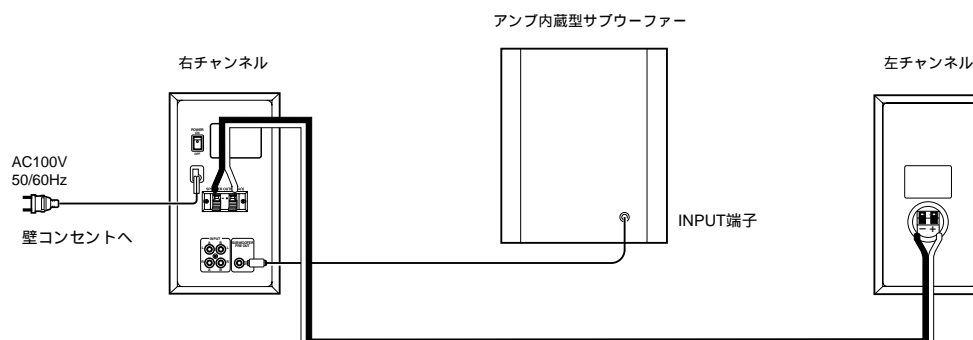
外部機器との接続のしかた

ご注意
- すべての接続が終わるまでは、電源コードをコンセントに差し込まないようにしてください。
- 電源を入れる前は、必ずボリュームツマミは反時計方向に回して最小の位置にしておいてください。

■コンピューターの音声モニターとして接続する場合

ご注意
付属されているコードの端子形状と、接続されるPC本体またはサウンドボードの音声出力端子の形状が合わない場合は、音声出力端子の形状に合わせて、市販の接続コードを別途お買い求めください。

■オーディオ機器と接続する場合

- 接続する機器の出力端子の形状に合わせて、市販の接続コードを別途お買求めください。
- A，B両方の入力端子を同時にご使用になる場合は、市販の接続コードを別途お買求めください。

サブウーファーとの接続のしかた

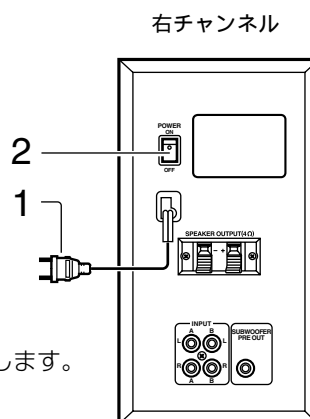
ご注意
- すべての接続が終わるまでは、電源コードをコンセントに差し込まないようにしてください。また、すべての接続が終わるまでは、サブウーファーの電源も入れないでください。
- 電源を入れる前は、本機およびサブウーファーのボリュームツマミは必ず反時計方向に回して最小の位置にしておいてください。

電源を入れる

すべての接続が完了してから、右チャンネルスピーカーの電源プラグをコンセントに接続してください。

1. 電源コードをつなぐ
電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。

よりよい音で聞いていただくために
本機の電源コードは極性の管理がされています。
電源コードの片側に線の入っている側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。

右チャンネル

2. 電源を入れる
電源スイッチをON側にしてください。前面のパワーインジケーターが点灯します。

取り扱い上の注意

■設置について

- 本機のキャビネットは木工製品ですので、温度や湿度の極端に高いところや低いところは好ましくありません。直射日光の当たる所や冷暖房器具の近く、浴室や台所の近くなど、湿気の多いところは避けてください。また、調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気の当たるような場所に置かないでください。故障の原因となることがあります。
- 本機に水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。スピーカー本体だけでなく、本機に内蔵のアンプや接続しているアンプが故障する原因となります。
- 振動や傾斜のないしっかりとしたところにおいてください。
- 本機は立てた状態で使用されるように設計されておりますので、寝かせたり、傾けたりしないでください。
- 本機は通常のご使用には十分耐えられますが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故の恐れがありますので、ご注意ください。
  1. オーディオチェック用ＣＤなどの特殊な信号音
  2. ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音
     （抜き差し時は必ず本機の電源を切ってから行ってください。）
  3. マイク使用時のハウリング
- スピーカーシステムと設置場所との間は面接触より点接触のほうが一般的によい結果が得られます。またガタツキがあると質の良い低音が得られなくなりますので付属のスペーサーやコインのような金属板を使ってガタツキがなくなるようにしてください。

ご注意

低域や高域を極端にブースト（増強）したり、低域や高域が異常に強調された特殊なソースを再生した場合、本来の信号音以外に異常な音が発生する場合があります。これは、故障ではありませんが、このような状態で長時間ご使用になると、スピーカーユニット破損の原因となりますので、音量を下げてご使用ください。

■セットのお手入れについて

キャビネットは、時々シリコンクロスまたは、柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは中性洗剤を薄めた液に、柔らかい布を浸し、固くしぼって汚れをふきとったあと乾いた布で仕上げをしてください。
固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものなのでふきますと傷がついたり、文字が消えたり、変色したりすることがありますから、ご使用にならないでください。化学ぞうきんなどをおつかいになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

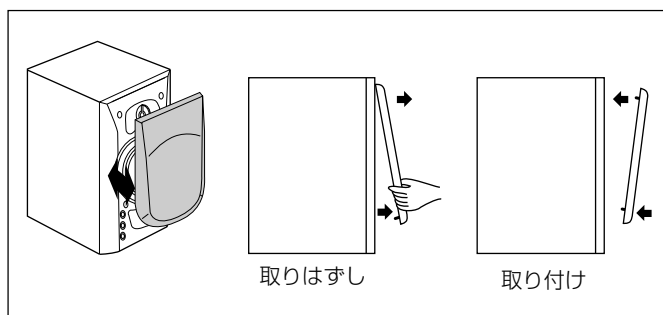
■防磁設計について

パソコンやテレビと組み合わせる場合、一般にパソコンやカラーテレビのモニターに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどのデリケートなものですので、ふつうのスピーカーシステムを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。本機は、(社)日本電子機械工業会(EIAJ)の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、パソコンモニターなどとの近接使用が可能となっています。ただし、設置の仕方によっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度パソコンモニターなどの電源を切り、15〜30分後に再びスイッチを入れてください。パソコンモニターなどの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合にはスピーカーをパソコンモニターなどから少しはなしてご使用ください。又近くに磁石など磁気を発生するものが置かれていますと、本機との相互作用によってパソコンモニターなどに色むらが発生する場合がありますのでご注意ください。

■サランネットの着脱

このスピーカーシステムは前面のサランネットを取りはずすことができます。サランネットを付けたりはずしたりするときは、次のように行ってください。

1. サランネットの下側を両手で持ち、手前に軽く引っ張り、サランネットの下側をはずします。
2. 同じようにサランネットの上側を手前に引っ張ると、サランネットは本体からはずれます。
3. 取り付けるときは、サランネットの四隅にある突起部を本体のサランネットキャッチャーに合わせて押し込みます。

取りはずし　取り付け

故障？と思ったら

本機が正常に動作しないときは、この表を参考にしてお調べください。これらの処置をしても直らないときは、電源プラグをコンセントから抜いて、「お名前」「おところ」「電話番号」「セット型名 GX-70AX」「故障状況」をできるだけ詳しくご記入いただいたメモを同梱の上、当社サービスステーションまでご持参ください。

症　　状	原　　因	処　　置
電源が入らない。	• 電源プラグの差し込みが不完全。	• 電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。（7ページ）
音が出ない。	• ボリュームツマミが最小になっている。 • 入力ピンコードがはずれている。 • スピーカーコードの接続が不完全。 • ミキシングボリュームツマミの位置が不適切。	• 適当な音量にしてください。（4ページ） • 入力ピンコードを正しく接続してください。（6～7ページ） • スピーカーコードを正しく接続してください。（5ページ） • 正しい位置にあわせてください。（4ページ）
音が小さい。	• ミキシングボリュームツマミの位置が不適切。	• 正しい位置にあわせてください。（4ページ）
片方のスピーカーからしか音が出ない	• 接続が不完全。 • 入力音源がモノラル音源。	• 入力ピンコードを正しく接続してください。（6～7ページ） • スピーカーコードを正しく接続してください。（5ページ） • モノ➞ステレオ変換アダプターを別途購入してください。
ブーンというハム音や雑音が出る。	• ピンコードの差し込みが不完全。 • 外部のリーケージフラックス（テレビ等からの誘導雑音）	• ピンコードをしっかり差し込んでください。（6～7ページ） • 雑音源より離してください。

アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付しています。保証書は販売店でお渡しいたしますから、所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
2. 保証期間はお買いあげ日より１年間です。万一、故障や異常が生じたときは商品と保証書をご持参ご提示のうえ、オンキョーサービスステーションにご依頼ください。その他詳細は保証書をご覧ください。
3. 保証期間経過後の修理についてはオンキョーサービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
4. 本機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後５年間です。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。
5. 保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明な点がありましたら、オンキョーサービスセンターにお問い合わせください。

ご購入された時にご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　年　　月　　日

ご購入店名　：

Tel.　　　（　　）

メモ：

主な定格

形式：右チャンネル　アンプ内蔵 2 ウェイ バスレフ型
　　　左チャンネル　2 ウェイ バスレフ型
再生周波数範囲：48 ～ 20,000Hz
クロスオーバー周波数：5,000Hz
最大出力：15 W X 2（EIAJ, 4 Ω）
入力インピーダンス：10k Ω 以上
入力感度(VOL.MAX 時)：280 mV
使用スピーカー：ウーファー 10 cm OMF コーン型
　　　　　　　　ツイーター 2 cm バランスドーム型
電源：100 V 50/60 Hz
消費電力：24 W（電気用品取締法）
入力端子：RCA ピンジャック、A,B 2 系統入力
外型寸法：右チャンネル 123 (幅) × 225 (高さ) × 203 (奥行) mm
　　　　　左チャンネル 123 (幅) × 225 (高さ) × 184 (奥行) mm
質量：右チャンネル 2.9 kg
　　　左チャンネル 1.7 kg
その他：防磁設計（EIAJ）

※定格および外観は、性能改善のため予告なく変更することがあります。

本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

ONKYO

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2ー1　〒572-8540

アフターサービスのお問い合わせ先：
サービス網一覧表記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。
●東京サービスセンター　☎ 03(3861)8121　●大阪サービスセンター　☎ 06(6576)7620

http://www.onkyo.co.jp/
http://mmc.onkyo.co.jp/

SN 29342753

D9905-1